

愛媛県立図書館利用案内

★本を借りるとき★

1. 「利用カード」を作しましょう。
 - ・愛媛県在住・在学の方は、だれでもカードを作れます。
 - ・本人の住所確認ができるもの（生徒手帳や保険証など）が必要です。
2. 本は、5冊まで3週間借りられます。
 - ・カウンターに、借りたい本とカードを出してください。
 - ※本は大切に扱い、友達に貸したり失くしたりしないようにしましょう。

★本を返すとき★

1. 返す本をカウンターに出してください。（カードはいりません。）
 - ・次の予約が入っていない場合は、延長ができます。
2. 図書館が閉まっているときは、玄関外の返却ポストに入れてください。
 - ※本が汚れていたり、大事なものはさんだりしていないか確認してください。
 - ※返却期日は守りましょう！！

★本を探すとき★

1. 図書館の検索用コンピュータで探すことができます。
（書名や著者名で検索できます。）
2. インターネットや携帯電話から探すこともできます。
 - ※分からないときには、カウンターでたずねてください。

★本を予約するとき★

1. 予約カードに必要事項を記入して、カウンターに出しましょう。
2. パスワードを登録すると、インターネットや携帯電話から予約することもできます。
 - ※パスワードの登録は、カウンターで申請してください。



みきちゃん

愛媛県立図書館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内

TEL:089-941-1441(代) FAX:089-941-1454

★開館時間★(火～金)午前9時40分～午後7時
(土日・祝日)午前9時40分～午後6時
(子ども読書室は午後5時まで)

★休館日★ 月曜、館内整理日(月末)、年末年始

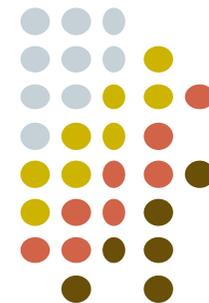
<http://www01.ufinity.jp/ehime/>

(携帯サイト <https://www.ehimetrosyokan.jp/winj/mobileopac/top.do>
スマートフォンサイト <https://www.ehimetrosyokan.jp/winj/sp/top.do>)

愛媛県立図書館 YAコーナー

YAつうしん

Vol. 45 2016.7



★新刊案内★

- ☆『エベレスト・ファイル』 マット・ディキンソン／作 小学館
- ☆『神さまのいる書店 [2]』 三萩 せんや／著 KADOKAWA
- ☆『たぶんねこ』 畠中 恵／著 新潮社
- ☆『パワーアップ吹奏楽!ホルン』 丸山 勉／著 ヤマハミュージックメディア
- ☆『君たちはどう働くか』 今野 晴貴／著 皓星社
- ☆『えどさがし』 畠中 恵／著 新潮社
- ☆『池上彰のみんなで考えよう18歳からの選挙 2』 池上 彰／監修 文溪堂
- ☆『3日で咲く花』 日本児童文学者協会／編 偕成社
- ☆『進路・将来を考える』 佐藤 理絵／監修 日外アソシエーツ
- ☆『エチュード春一番 第1曲』 荻原 規子／著 講談社
- ☆『サーティーナイン・クルーズ 22』 小浜 杏／訳 KADOKAWA
- ☆『5分間だけの彼氏』 日本児童文学者協会／編 偕成社

毎年行われる青少年読書感想文全国コンクール

(<http://www.dokusyokansoubun.jp/>) は、今年で62回を迎えます。

毎年選ばれる課題図書にはいい本がたくさん！

これまでに選定された課題図書の中から紹介します。※『書名』回(年)対象

『インパラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日』

中村 安希著 集英社

第56回(2010)高等学校

世界を歩き、知らないことを自分の目で見たい。26歳の筆者はユーラシアからアフリカ大陸をめぐる2年間の旅に出る。貧困、紛争、病気などの問題があり、女性が一人旅をするには危険すぎる地域だが、筆者は最低限の荷物と冷静な判断力を持ち、旅する国の文化や慣習に逆らわず旅を続ける。旅とは、国とは、人間とは、そして生きること、希望とは？



『ちいさなちいさな王様』

アクセル・ハツケ作, ミハヤエル・ゾーヴァ絵

那須田 淳共訳, 木本 栄共訳 講談社

第43回(1997)中学校

少し前から僕の家にも、人差し指ほどの大きさしかない小さな王様がやってくる。王様の名前は十二月王二世。

白いテンの毛皮の縁取りの分厚い深紅のマントを太った体に着て、熊の形のグミが大好き。王様の世界では、人生は大人から始まり、だんだん体が小さくなっていく。自分たちは小さく生まれてだんだん大きくなるのだと言う僕に、王様は言った。「おまえたちは、はじめにすべての可能性を与えられているのに、毎日、それが少しずつ奪われて縮んでいくのだ。…」。



『百年前の二十世紀』

横田 順弥著 筑摩書房

第41回(1995)高等学校

明治(1868-1912)大正(1912-1926)時代の人たちは、100年後の世の中をどのように予想していたのでしょうか？

筆者が、当時の人たちが書いた文章を調べてみると、

○「電話口には話す相手の姿が映る電話ができる」

△「写真電話により、遠距離にある品物を鑑定して売買契約を

すると、品物は地中の鉄管を通して、ただちに手元に届く」

×「動物のこことばの研究は進歩して、小学校に獣語科ができ、人と犬、猫、猿とは自由に対話することとなる」・・・などなど。

当時の人々の想像力豊かな予想は的中して驚いたり、面白いほど外れていた。彼らが予測できなかったことは？

この本が出版されてから20年以上。今から100年後、どんな世の中になっているのか、考えてみませんか？



『ザ・ギバー 記憶を伝える者』

ロイス・ローリー作, 掛川 恭子訳 講談社

第42回(1996)高等学校

感情が抑制され、職業が与えられ、家族が決められて、規律正しい社会が運営される、「理想的な」コミュニティに生きる少年ジョーナス。

子どもは〈十二歳の儀式〉で個性に応じて〈長老会〉から〈職業任命〉を受け。ジョーナスはコミュニティにただ一人の〈記憶を受けつぐ者〉の

後継者となり、〈記憶を伝える者(ザ・ギバー)〉となった前任者から全世界の記憶を受けついでいく。

それは最も名誉ある仕事であると同時に、苦痛と孤独を知る仕事でもあった。



ご質問やご意見は、メールでも受け付けます。

アドレスは、ya@libnet.ehimetosyokan.jp

(件名に「YAメールレファレンス」と入れてください。)

★お名前、連絡先メールアドレスも忘れずに入力してください。